

校訓 「くじけるな のびよ身と心 大望をもて」

《 あかぎ

赤木名の子らよ、大木になれ・七本のあかぎ

5月号 平成29年5月23日(火)発行

《 いのち チャレンジ(挑戦) 感動 感謝 》

不易と流行！

校長 前田 和洋

奄美地方は早くも梅雨入りを迎え、愚図ついた天気が続くようになりました。13日(土)に、授業参観、PTA総会を計画しましたところ、悪天候にも関わらず多数の保護者の御出席をいただき、滞りなく終了することができました。皆様の御協力に心から感謝申し上げます。

さて、新年度も一か月半が過ぎようとしています。新年度のPTA活動も新体制で本格的に始動し、各学年では落ち着いて日々の学校生活が展開され始めています。今月は、PTA総会の他、6年生の修学旅行があります。2泊3日の日程ですが、児童の安全管理に万全を期し、子どもたちの心に残る楽しい学習が展開されるよう努めてまいります。

さて最近のマスコミ報道で、大学入試のセンター試験方式が大きく変更されるというニュースが報道されました。小学校でも平成32年度(2020年度)から新学習指導要領が全面実施され、5・6年生における教科としての「外国語活動」の新設や「アクティブラーニング」に代表される能動的な学習(「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」)が重視された学びを目指すこととなります。それに先立ち先行実施として平成30年度からは「特別の教科道徳」として、教科としての道徳もスタートします。これ以前の教育改革でも、新しい教育施策が次々と実施され、子どもたちも、新しい教育施策が施行されるたびに、その動きに順応しながら、新しい学習内容に必死に取り組んでいます。教師もこれまで経験したことのない、新しい教育の流れに対峙しつつ日々学びながら試行錯誤を重ねている毎日です。

しかし、私は時代を超えてしっかりと受け継いでいかなければならない思想もあると思っています。下記の文章は、昭和初期の頃に活躍された教育者の森信三先生の著書から抜粋した教育語録です。



森信三先生 語録

- 「教育とは、人間の生き方の種まきをするところである」
- 「教育とは、流水に文字を描くような果てない業である。だが、それを巖壁に刻むような真剣さで取り組まねばならぬ。」
- 「教師は、常に子どもらと共に生き、かつ育つことを念願しなければならぬ。かくして、真に生徒を教えるには、教師自身常に自らの人生を精進してやまぬ態度を通してのみ可能だという心理を、瞬時たりとも忘れてはなるまい。」
- 「しつけの三大原則。朝必ず親に挨拶できる子に。『はい』と返事のできる子に。履物を脱いだら、必ず揃え、席を立ったら必ず椅子を入れる子にする。」

これは、90年前の教育語録ですが、現在の教育現場や教職員へも通ずる内容です。このことは、変わらない教育の本質の一部だということができます。つまり、本質的なもの「不易」を追求するためには、常に変化「流行」をしていかなければならないのであり、変化する(流行を追う)場合も本質的なもの(不易)を踏まえていかなければならないと考えることができます。まさにこの赤木名小学校でも、地域の中で綿々と受け継がれた伝統や文化を踏まえつつ、世界に発信するグローバルな新しい学びを進めていきたいと考えます。

わらふい さき むんづくり さき

“童ぬ先とふ作物ぬ先やわからん”(島口教訓カレンダーより)

子どもの将来は、農作物がどのように育つか予測がつかないのと同じように未知である。小さいうちにいろいろな体験をさせ鍛えていくことが大切である。

毎月第3日曜日午前中は、
家庭の日・市民清掃の日

子どもたちの成長は予想以上のものがあります。赤木名小学校の子どもたちも学習に朝のボランティアに、緑の少年団活動等にと毎日がんばる姿が見られます。島口教訓カレンダーにもあるように、子どもの可能性は未知です。将来を大きく開花させるためには、本人のがんばりが一番ですが、学校や家庭・地域における大人の役割も大きいと思います。赤木名小で学ぶ子どもたちを「島の宝」として育てていけるように、学校・家庭・地域で連携をとりあっていけたらと思います。御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。

